

松川第一発電所跡

伊那谷初の電気事業

1899(明治32)年飯田電灯(株)は、米国製発電機を使って伊那谷で最初の発電所(松川第一発電所)を建設した。天竜川支流松川の流れを利用。最大出力75kW。1930(昭和5)年に廃止され、現在は、発電に使う水を通した導水路(石積み)が左岸に残っている。



案内看板と、対岸の石積みの導水路跡
(注:川の中および発電施設は危険ですので、近づかないようにしてください)



石積みの導水路跡

発電所名	運転開始	備考
松川第一発電所	1899(明治32)年12月	・飯田電灯(株) ・大正7年10月に伊那電車軌道に合併 ・昭和5年12月廃止 ・現存する中部地方最古の水車
松川第二発電所	1919(大正8)年4月	・伊那電車軌道(株) ・昭和5年12月廃止
松川第三発電所	1924(大正13)年10月	・伊那電車軌道(株)
松川第四発電所	1930(昭和5)年12月	・伊那電車軌道(株)
松川発電所	1985(昭和60)年5月	・中部電力(株)
松川ダム発電所	1986(昭和61)年5月	・長野県営



松川筋の発電所位置図(「飯田市歴史研究所年報③下伊那の国学」より)



information

- アクセス
飯田ICから10km
車→35分
- 所在地
飯田市上飯田



2003(平成15)年、松川第一発電所で使用されていた水車ランナー(羽根車)2個が発見された(中部地方に残る最古の水車)。1個は中部電力飯田営業所に展示されている。

松川第一発電所の取水口は、現在の松川第三発電所放水口あたりにあり、導水路の下流にはきれいに整えられた石組みの水槽跡も見つかった。1916(大正5)年に、増設し、石造りに造り替えられたので、その時に建設されたものと推測される。



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)